

名古屋城天守を「戦後復興市民のシンボル」に

28年だって完成見通しはない！

2022年は断念！材木保管に毎年1億円

名古屋城天守閣の木造復元事業を巡り、名古屋市は4日の市議会本会議で、完成時期について「市当局としては2028年10月完成の工程案しかない」と明言した。河村たかし市長も「(新工程案に)文化庁が了承するなら、わしはOKです」というが、文化庁が了承する見通しはない。

2020年度予算案に木材保管費1億円

木造復元には、バリアフリーの問題だけでなく、消防、耐震の問題をクリアした後、建築審査会の同意を得て建築基準法の適用除外を受けることが可能になります。これらを

すべてクリアするにはあと何年かかるのでしょうか。しかし名古屋市は100億円の木材のうちすでに買った分の保管料1億円を来年度予算案に計上しました。

「昇降新技術公募」に約1億3000万円

また、昇降に関する新技術の公募に1億3168万9千円計上。エレベーター設置を認めない姿勢に対し、障害者団体は反発し続けています。名古屋市は、復元のめどが建っていないにもかかわらず、2020年3月中に昇降機技術公募をはじめると言っています

名古屋城天守閣木造復元（計画）が進まない理由（不都合な真実）



4つの課題が設計段階で未だに克服できないからです。

- 1, 建築基準法で示す建築の前提条件(現代の建築物と同等の耐震性を確保する)が満たせない。
- 2, 消防法等で示す建築の前提条件(現代の建築物と同程度の防火・避難性を確保する)が満たせない。
- 3, 史実に忠実な復元と両立できるバリアフリー環境(昇降装置)の整備ができない。
- 4, 天守台の石垣の毀損を防ぎ保全を進める整備方針が作成できない。

名古屋市側は伊藤詩織セクハラ裁判山口氏の弁護士！

市民が起こしている名古屋城裁判で2/26、裁判所から説明を求められた名古屋市は「基本計画書」とは違う「文化庁基本計画書」なる新しい言葉を出してきました。これには裁判長も驚き。

市側の弁護士は伊藤詩織セクハラ裁判で「仮にも被害を受けた女性なら、すぐホテル従業員へ助けを求めるべき」と侮辱発言したセクハラ弁護士。安倍首相だけでなく河村市長の知合いのようです。



名古屋城

桜を見る会

4月5日(日)14時

地下鉄「市役所」駅

7番出口集合

石垣の修復など説明を聞きます。

名古屋城天守を「戦後復興市民のシンボル」に(TEL 080-3069-7722 西浦)